

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム笹貫の家
所在地	鹿児島市小松原1丁目1番2号 (電話) 099-268-2627
自己評価作成日	令和5年12月26日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの裏手を鹿児島市の市電が行き来しており、「ゴトン、ゴトン」と市電の走る音が心地よく聞こえる場所にあるグループホームです。鹿児島市南部のほどよい街中にあり、市電のほかに公共交通機関も充実しており、ご家族様等の面会には便利な場所だと思っています。「あなたが今できることを大切に。」職員他「地域や家族と共に支援し、」「笑顔の絶えない、ゆっくりと安らげるグループホームに。」との理念を掲げて、利用者様の生活ペースを大切に、お一人おひとりの想いや時間に寄り添い暮らしを共にしています。昨今のコロナ禍で思うような外出支援ができかねる状況ですが、コロナ禍でも楽しめる季節ごとのイベントや少人数ずつでの外出支援等を計画して行えることで、利用者様やご家族様に喜んでいただいています。加入している町内会の清掃活動や防犯パトロールへの定期的な参加をはじめ、地域の方々とも良い交流ができています。健康管理・医療的な支援については、利用者様が希望される医療機関や協力医療機関への通院や往診支援をしており、医療連携している訪問看護ステーション様と日頃から利用者様の健康状態を情報共有や相談できる体制があることで、利用者様の健康管理に努められています。また協力歯科医院を通院や往診して、口腔の健康管理や口腔ケアの助言指導を頂くことで「いつまでも美味しく食事ができて、元気で過ごせます。」の理念の実践に取り組んでいます。毎月「笹貫だより(ホーム便り)」をご家族様等にお送りして、ホームでの暮らしの様子や予定などをお伝えし、ご家族様等に本人様やホームのことを情報共有していただいています。ホーム近隣に公園やお店、レストランや郵便局などあり、地域の社会資源にも恵まれた環境にあり、天気の良い日は心地よい陽光が差し込み、時間の流れがゆっくりと感じられるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、鹿児島市小松原地区の一角に平成16年7月に開設しており、周辺にはJR宇宿駅や市電笹貫電停、医療機関、コンビニ、多種の商業施設、公園、個人住宅等が立ち並んでいて利便性に恵まれた環境である。ホームの窓からは人や車の往来や電車の通過の音や様子が眺められている。

管理者及び職員は家族や地域との交流を大切に取り組んできており、コロナ感染症が5類に移行したのを機に、家族や友人との対面による面会や周辺の散歩、ドライブによる季節の花見、実習生の受け入れ、家族との外出や一時帰宅等に取り組んでいる。自治会に加入して地域の情報の把握に努め、回覧板の受け渡しを利用者と一緒に、再開された地域の夏祭りには「ひょっとこ踊り」で参加して喜ばれている。夜間の防犯パトロールや地域まち美化(ゴミ拾い)運動にも積極的に取り組み、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談や施設見学等にも丁寧に対応している。周辺の感染状況を把握しながら、家族や地域との交流の機会を増やしたい意向である。

管理者及び職員は、ホームの理念をホールや事務室等に掲示し、朝礼での唱和や日常的に振り返りや意見交換を行って認識を共有している。重度化や知的障害等によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、常に対話や寄り添いの姿勢で思いの汲み取りに努め、残存能力や自己決定を尊重しながら安全でその人らしい安らぎと生きがいのある日々となるように支援している。家族からの要望や意見等にも迅速に検討して改善を図っており、本評価に伴う家族アンケートからも信頼度の高さが窺える。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼後に勤務者全員で理念唱和を実施し、意識づけてケアの実践につなげられるよう取り組んでいる。また定期的に理念を振り返り、理念の実践ができているかを管理者と職員は見直しを含めて協議し理念共有に取り組んでいる。	ホームの理念は目に付き易いホールや事務室に掲示しパンフレットにも記載しており毎日の朝礼で唱和も行っており周知を図っている。毎年12月には理念をテーマに研修を実施し、日頃の業務の中や毎月のミーティング等でもケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿って利用者が家族や地域と関わりを継続しながらその人らしい平穏な暮らしが送れる支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、町内会主催の季節の催し事に利用者様と共に参加させていただいたり、夜間の防犯パトロールの一員として月1回参加している。また地域まち美化委員会にも登録させていただき、町内会の方々と清掃活動等に参加し交流させていただいている。	コロナ感染症が5類に移行したのを機に地域との交流を再開しており、家族や友人との面会（ユニット入口でオープンな状態）や近くの公園への散歩、コンビニでの買い物を日常的に実施して地域の人と会話し高校生の実習も受け入れている。町内会に加入して情報を把握し回覧板の受け渡しを利用者と一緒に、再開した町内会の夏祭りには「ひょっとこ踊り」で参加し夜間防犯パトロールや地域町美化（ゴミ拾い等）事業の委員も担って参加している。地域の人からの高齢者福祉や施設見学等の相談にも丁寧に対応するなど円滑な交流が図られている。感染状況を把握しながら徐々にボランティアの受け入れ等、地域との交流の機会を増やしたい意向である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を中心に、グループホームでの取り組みや実践を発信したり、毎月のホーム便りで日常の様子等を掲載して町内会会長様や民生委員様、管轄の地域包括支援センターに配布して、認知症の人の理解や支援方法等を地域の方々に向けて生かすことに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨今のコロナ禍で、感染状況をみながら事業所内での会議を中止したり開催できたりしている。会議中止時は書面開催とし、運営状況等の資料を作成し、町内会会長様や民生委員様、地域包括支援センターや家族様に送付やお届けして、事業所の運営状況や近況の情報共有を図り、電話等でご意見をいただけるよう努めている。	コロナ禍の状況に応じて、書面会議や委員が参加しての会議を家族や町内会会長、民生委員、地域包括支援センター等により隔月毎に開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット等の報告や協議を行ない、委員からも地域の情報や意見が活発に出されている。職員は会議の内容を共有して業務やサービスの向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉事務所の担当者様とは、個別の利用者様の医療機関受診状況や健康状態、生活支援等の連携を、管轄の地域包括支援センターとは事業所の実情等について相談や連携をとり、必要に応じて市の介護保険課等に相談等をし、日常的に協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市谷山支所の担当者とは窓口や電話、メール等で介護保険の更新や各種制度、コロナ禍対応の相談や協議、申請を行い、生活保護受給中の利用者（7人）の処遇に関する連携を担当ケースワーカーと密に行うなど日頃から協力関係を築いている。市からの情報の把握に努めズームによる研修や集団指導にも参加してサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び管理者や全ての職員は、身体拘束についてを正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に日頃から努めている。身体拘束についての定期的な内部研修を行ったり、昨今のコロナ禍で機会は少ないが、外部研修に参加して全員で学びを深めている。月1度の職員ミーティングにおいて、センサー使用の状況やその目的、施錠についてを見直して、改善に向けての取り組みができるよう努めている。	身体拘束や高齢者虐待をしないケアについては運営規定や利用契約書に明記され、計画的な内部研修（年3回）の実施や外部研修にも参加し、ミーティング等でケアの振り返り、意見交換も行つて認識を共有している。身体拘束適正化を図る身体拘束廃止委員会も年4回開催して利用者の尊厳や意向を尊重したケアに努めている。スピーチロックや不適切なケアにはその都度助言する等、日頃から改善に取り組んでおり、昼間は玄関は施錠せず、センサーの使用（4人）については家族の了解も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な内部研修にて、高齢者虐待について学びを深め、月々の職員ミーティング内で虐待につながるような事例の有無を協議し、管理者や職員は、日頃から虐待防止についての意識をもち従事している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な内部研修で、権利擁護に関するテーマで学ぶ機会を作っている。日常自立支援事業対象の利用者がいらっしやり、活用しながらの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、懇切丁寧を心がけて、十分な説明と理解が得られるようにし、利用者様や家族の不安や疑問点をお聞きして明確な回答と安心していただけるようにしている。またご利用中の様々なリスクについてのご説明も文書を用意して予めご説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気兼ねなく、ご意見やご相談ができるように、電話や面会時にお受けしており、管理者や職員側から現在の困りごと等をお尋ねして、いただいたご意見等を運営に反映できるように取り組んでいる。運営推進会議にも参加していただき、ご意見等を話していただく機会を設けている。	日頃から利用者や家族とは気軽に話せる関係作りに努めている。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族の要望や意見は、面会や電話、手紙、ライン等で、また、写真やコメントを記載した「ささぬき便り」の送付等で把握しており、家族会の再開も検討している。出された意見は速やかにミーティング等で協議して運営やサービスの改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月々の職員ミーティング時を中心に、管理者は職員から意見を伺う機会を設け、その意見を管理者経由で代表者に伝えられるようにしている。また日頃から管理者に些細な事でも相談や意見を伝えられる雰囲気や環境作りに努めて、コミュニケーションを図りながら意見を運営に反映できるよう努めている。	管理者は、日頃の業務の中や毎月のミーティング、個別面談等で意見や要望、悩み等を把握し、必要に応じて法人本部とも協議しながら改善に努めている。日常的にケアへの助言や研修を実施し休憩時間の確保や勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮するなど働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、職員との信頼及び協力関係を築いている。外部研修受講等に要する経費の助成や表彰制度が整備され職員の意欲に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者より実績や勤務状況等の報告を受け、職員が向上心をもって働けるような研修企画や案内を管理者経由で発信し、職場環境や条件の整備に努めている。介護支援専門員試験合格や勤務功労者への表彰も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所に従事する管理者や職員ひとりひとりの状況を把握し、法人内外で行われる研修の発信をうける機会を確保し、それぞれに合った研修に参加することで、働きながらスキルアップにつながるトレーニングを進めている。介護実務者研修も法人内で行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われる法人内のグループホーム管理者会議で、管理者同士は情報交換等の交流を図ったり、法人内で行われる研修参加や他事業所への応援助勢の機会に相互の職員間で意見交換等の交流ができるようにし、スキルアップやサービスの質向上につなげられる取り組みを実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、本人様の現段階や先々についての困りごとや不安・要望を傾聴して本人様が安心してサービス利用できるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、家族様等が現段階や先々のことでの困りごとや不安・要望を伺い、本人様や家族様が安心してサービス利用ができるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始段階で、その時にまず必要とされている支援を話し合い見極めて、居心地よく過ごしていただけるように、他のサービスも含めて柔軟な対応に努められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はパーソンセンタードケアの視点に立ち、意識を持てるように努めて、グループホームでの暮らしを共にさせていただく為に、良好な関係性を築け、本人様の安心と尊厳が守られる暮らしが送れるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人様と家族様の関係を正しく理解して、お互いの絆を大切にしながら理念の通りに、本人様を家族様と共に支援していけるよう、常日頃から取り組めるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症が第5類になり面会や外出等を緩和しながら、馴染みある人との面会や場所への外出をしていただいている。また日頃から電話をかけたり手紙等を送ったりと。本人様にとって大切な関係性が途切れないよう職員は努めている。	コロナ禍により自粛していたことを緩和し、対面での面会や公園への散歩、訪問美容、近くの公園での桜の見物（全員参加）やドライブによるコスモス等の花見、家族との外出外食等に取り組んでいる。毎月発行の「ささぬき便り」で利用者の近況を写真やコメントで伝え、電話や手紙の取り次ぎも行うなど関係の継続に努めている。周辺の感染状況を確認しながらボランティアの受け入れや全員での外食等、馴染みの人や場との交流の機会を徐々に増やしたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格や利用者様同士の関係・相性等を把握して、利用者様同士が談笑したり、レク活動や生活リハの家事等を通してコミュニケーションを図り、相互に支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、その利用者様家族から定期的にご連絡を頂いて、相互に近況を会話したり、その利用者様家族の知人様の在宅介護についての相談をお受けしたり、できる範囲内でのフォローを行ったりと、関係性を大切にできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常をどのように過ごしたいか、本人様から暮らし方の希望や意向を伺いながら、その思いに添えられるように努めている。困難な時は本人本位に検討できるよう取り組んでいる。	知的障害や重度化によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の関わりの中での会話や仕草、独自のサイン等から思いを汲み取り、職員は共有してその人らしい安全で生きがいのある暮らしへの支援を家族の意向も確認しながら取り組んでいる。趣味や楽しみ事、家事等の取り組みも利用者の意向や体調、残存能力等に配慮しながら個別の支援にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活歴を含めて、利用開始時やその時々には、本人様や家族様から伺いながら把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りや、一人ひとりの個別記録等を職員全員で情報共有して、その人の心身状態や現状の有する力等の把握に努めている。個別ケア記録や個々のバイタル表、ケース記録、また定期的なケアカンファレンス時に職員間で協力して取り組んでいる。		
26	#	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画では、本人様やご家族のご希望や困りごとを基に話し合い、ニーズに添えるような計画の反映をしている。また定期的にカンファレンスを開き、モニタリングを中心にして介護計画の見直しと作成ができるように取り組んでいる。	利用者や家族の意向を汲み取り、主治医の指示や毎月のモニタリング、カンファレンス時の職員の意見、日々の記録等を基に、習慣や趣味等にも配慮した介護計画を作成して改善に努めている。利用者の状況変化時には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解を得ながらケアしており、職員は実施状況を各種のチェック表や介護日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様ごとに、個別のケース記録、食事水分摂取/排泄等記録、バイタル表を作成し、利用者様の中で心身状態の変化が著しい場合は、詳細を記録できるよう24時間シートを作成している。そのような記録を職員間で情報共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かせるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況変化であったり、ニーズ等の変更には柔軟に対応できるよう努めている。その際はカンファレンスを開催して、どのような支援ができるかを協議して提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、町内会が主催する夏祭りに参加したり、町内にある他法人の高齢者福祉施設様と町内会と当事業所が共同開催する秋の交流会を企画参加し、暮らしを楽しめるよう支援している。近隣にお店や公共施設、公共交通機関も充実しているので、機会をみて活用できるよう支援している。		
30	#	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、本人様及び家族様に希望するかかりつけ医をお尋ねし、希望するかかりつけ医を受診できるようにしている。希望が無い場合は、協力医療機関の田上記念病院や本人様の既往・現病に則てかかりつけ医を決めて、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、従来の医療機関や協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）や通院が実施され、他科受診（皮膚科、眼科、泌尿器科他）は家族と協力して取り組んでいる。協力医療機関とは日常的に密な連携を図り、24時間医療連携の体制も構築しており、医療連携による看護師の週1回の訪問で健康チェックも行っている。日頃から感染予防や健康管理に努め、家族とも密に連携しており家族の安心や信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護STに、その方の心身状態変化があった際は、訪問看護師に相談して受診につなげられるようなフォローを頂き、適切な受診や看護を受けられるようにしている。週1回は医療連携で看護師訪問があり、その際に情報共有や個々の利用者様の状態について助言等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院になった場合は、病院側の相談員様とこまめに連絡を図りながら、入院中の状態を教えていただき、できるだけ早く退院ができるよう、家族様とも連絡をこまめにとりながら、入退院支援ができるように努めている。		
33	#	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化や終末期に関する当事業所としての指針をお伝えし、また利用途中より重度化した場合、またかかりつけ医より終末期にあたるとの所見の場合は、家族様等と話し合いをこまめに行い、事業所としてできる事、できない事を十分に説明し、支援ができるように取り組んでいる。R5.10月に当グループホームとして初めての看取りケアを協力医療機関の田上記念病院医師や訪問看護STと連携して行った。	重度化や看取りの対応は指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ており、同意書も貰っている。重度化した時点で再度家族の意向を聞き取り、主治医や看護師と連携してホームで可能な限りのケアをチーム体制で取り組むこととしており、昨年10月に初めての看取りを実施している。看取り終了後には全員で振り返りや意見交換を行ってスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に時間を設けて、応急手当や初期対応の訓練を救急救命士より受けたり、医療連携している訪問看護STより指導を受けて実践力を身に付けられるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	#	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災想定や地震風水害想定避難訓練を行い、避難できる方法を学んでいる。運営推進会議を活用して地域からも協力が得られるように働きかけている。	年3回（1回は消防立ち合い）夜間想定を含む火災や風水害、地震発生時の防災訓練を消防設備会社の参加を得て実施し、訓練後は通報や防火設備の取扱い等を研修している。訓練実施の予告を町内会長や民生委員等に行い、また近隣の商店との協力関係に努めている。日頃から連絡網や避難場所及び経路等を確認する等、防災体制を共有している。災害発生時の飲料水や食料、介護用品を3日分備蓄し、BCPは作成済である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	#	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ミーティングの機会や常日頃から、利用者様に対しての言葉かけや関わり方について、人格を尊重し恥ずかしい思いにさせないことや、誇りやプライバシーを損ねない心ある対応ができるよう、全員で取り組んでいる。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報の取扱いについてはマニュアルを整備し日常的にケアの振り返りを行って認識を共有している。ホームはプライバシーに配慮した構造で、排泄や衣服の着脱時の支援は尊厳や人格を尊重し羞恥心、習慣等にも配慮した言葉やトーンに努めており、居室への入室時はノックや声掛けを励行している。日頃から利用者の自己決定を尊重し無理強いしないケアに努めており、情報紙等への氏名や写真の掲載については利用者及び家族の意向を利用開始時に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で、選択肢を提供して希望や自己決定ができる場面を作り出せるように心がけている。例えば食べたい物や買い物や出かけたい所など、その時の希望を伺い希望に沿えるような支援ができるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様本位にその人らしく過ごしていただけるよう、なるべくお一人おひとりの生活ペースを大切にして、思い思いに過ごせるように、希望に沿って支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着たい服を本人様に選んでいたいたり、髪型の整容時は鏡の前で、好きなように整えられるよう見守り、約2ヶ月に1度の訪問カットの美容師を招いてヘアカットしてもらったりと、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	#	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所カウンターにて利用者様と共に料理に使う食材の下ごしらえを準備することや、食後の片付けや食器洗いなどを一緒に取り組んで、食事を楽しむことができる支援に取り組んでいる。献立も楽しめるようなものとなっている。	栄養士の資格を有するケアマネージャーが栄養バランス、嗜好、季節感、代替食、旬の食材等を考慮したメニューを作成し、食事が利用者の何よりの楽しみであることを意識しながら調理している。ミキサー食やトロミ食など利用者に応じた形態に努め、季節の行事食（おせち、彼岸、クリスマス他）や誕生会のちらし寿司、ケーキ、敬老会のお祝い弁当、手作りのおやつ等日常的に工夫し、利用者も調理の手伝いや後かたづけ等を一緒に行っている。食事や水分の摂取状況も利用者毎に把握している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格のある職員が献立をバランスよく考えて作成している。お一人ずつの食事量や水分量を把握して記録しており、その人に合った食器や湯呑の選定に配慮したり、食事習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は利用者様の口腔状態を把握し、毎食後に本人の力に応じた口腔ケアを実践している。義歯を使用している方は就寝前に義歯を預り消毒を行うことで、口臭予防に取り組んでいる。協力歯科医院にて、口腔状態の健康管理をしてもらい、定期的な歯科受診支援とお口の健康維持に努めている。		
43	#	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人ずつの排泄パターンを把握できる記録をとり、できる限りトイレでスッキリ排泄できるように職員全員で取り組み、失敗やおムツの使用頻度をなるべく減らせるように取り組んでいる。	利用者毎の排泄パターンをチェック表で把握し、声掛けや誘導、2人介助も行いながら昼間は殆んど全員がトイレで排泄している。夜間のみポータブルトイレ（2人）やリハビリパンツにパットを使用するなど利用者の状態に応じて工夫し、介護用品やケアの方法をプランにも反映させており、リハビリパンツから布パンツへの改善も見られている。食事や水分、乳製品（ヨーグルト、ホットミルク）の摂取、運動量に配慮して自然排便に努めているが、状況によっては主治医の指導で緩下剤を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響や、その原因を職員は理解しており、繊維の多い食材を使った献立や、乳製品を摂っていただいたり歩くことをはじめ、体を動かせる運動をレク活動に取り入れ、なるべく薬を使用しないで生活上の工夫で便秘予防ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	#	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間や入浴方法など、ゆっくり気持ちよく入浴できるように配慮して、入浴が楽しめるようにしている。また入浴剤を使用して少しでもお風呂の時間が楽しめる入浴支援を行っている。	基本週2～3回、個浴での午前入浴を支援しているが、状況によってはシャワー浴や清拭で保清している。順番や温度、時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、ゆっくり楽しめるように取り組んでおり、入浴後は水分補給（好みでお茶、ポカリスエット、コーヒー牛乳等を選択）や皮膚疾患の手当を支援している。入浴が苦手なためらう利用者には時間の変更や声かけ等を工夫し、清拭や足湯への変更など利用者の意向に配慮しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ずつの睡眠状況を把握して、居室の空調や照明に配慮しながら眠れるよう支援している。夜は寝つき良くいただく為にホットミルクやホットココア等の提供をしている。日中でも昼寝の生活習慣がある方には食後短時間の昼寝をさせていただいたり、気持ち良い睡眠支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される内服薬について、受診内容と処方された内服薬についての目的や用法等の周知理解を図り、配薬に来られる薬剤師にも薬について分からないことがあれば随時相談や助言をいただきながら、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつの生活ペースを把握して、その方ができる家事等の役割を担っていただいたり、好きな物やその日その日の楽しみごとの支援を行うことで、気分転換が図れるように取り組んでいる。		
49	#	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症が第5類になり、制限していた外出等を緩和して、外出や外食、お墓参り、親戚・友人等へ会いに出かける事、ご家族と共にでかけることを家族様等の協力を得て支援している。近隣の公園やお店等、またドライブ等では、本人が希望すれば一緒に戸外へ出かけられるように支援している。	コロナ禍による自粛を緩和し、利用者の健康状態や天候、感染予防に配慮しながら意向に沿って周辺の散歩や買い物、近くの公園での桜の見物、ドライブによるコスモス等の花見、家族との通院、外出、墓参等を支援している。全員での外出は十分には実施できないため、室内での軽い体操やゲーム、貼り絵作成、昔の流行歌や映像を楽しむなどレクリエーションも工夫して気分転換を図っている。感染予防に配慮しながら外出の機会を増やしたい意向である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持すること、お金を使うことの大切さを職員は理解しており、利用者様の中には少額を所持されており、買い物希望される方がいらっしゃったら、近隣のコンビニエンスストアやお店で買い物等、お金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様で携帯電話を持っている方は、見守りの下でかけたい時やかかってきた際に取次対応し会話を楽しまれ、積極的に電話でのやり取り支援をし、電話を通して家族様等との繋がり支援をしている。また手紙など郵便物が届いたら返事や電話でやり取りができるようしている。		
52	#	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは快適に過ごせる空調調整を行いながら、照明も不快にならない程度で天気の良い日は自然光が入るよう配慮している。テレビ音量の調整、不快な生活音、トイレ等の臭いなど、環境整備もこまめに行いながら、季節ごとにその季節を感じられるような壁面作りに、利用者様にも参加していただきながら定期的に制作に取り組んでいる。	ホーム全体がバリアフリーの構造で廊下やフロア等は余裕のある広さが確保され随所に手すりを設けている。整理整頓や採光、空調等にも細かに配慮しており窓からは人や車、電車の往来が眺められている。季節に沿った利用者の作品（貼絵他）や絵画が飾られ、メダカやグッピーの水槽も置かれて、和やかで清潔感のある空間となっている。キッチンからは調理の音や臭いが伝わり、テレビやテーブルセット、加湿器、手指消毒等が利便性や人間関係に配慮して設けてあり、利用者は四季を感じながら平穏に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様相互の関係性や状況に配慮した席づくりをして、利用者様同士が思い思いに過ごせるような工夫をしている。またソファでくつろいでいただいたり、メダカ水槽を置いて観賞しながら過ごせるような共有空間づくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	#	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の段階で、本人様にとって大切にされている物や馴染みある物をできるだけ持ち込んでもらうようにしている。また本人様居室は居心地よく過ごせられるようレイアウト等にも配慮し、家族様にも協力をいただきながら工夫している。	居室入口には戸惑うことのないように氏名が表示され、室内はフローリングに腰高窓で明るく余裕ある広さが確保されている。エアコン、ベッド、タンス、洗面台が備えられ、清掃や整理整頓を利用者の意向を確認しながら支援している。利用者の状況に応じてナースコールが設置され、利用者は愛用していたテレビや寝具、位牌、家族写真等を持ち込み、自身の作品や頂いた千羽鶴等も飾るなど、その人らしい居心地良く過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には表札を設置したり、トイレには多角的に見えるよう「お便所」の貼紙を貼付し、浴室前には「湯」の暖簾や「お風呂場」の貼紙を設置したりと、一人ひとりの「できること」「わかること」が活かせるよう可視化して、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない